

分科会（６） 「バリアフリー」

平成14年10月19日（土）午後1時～3時
市民会館3階第4集会室

コーディネーター : 乙津 豊彦 氏
プロジェクトチーム : バリアフリーPT



《司会》

皆さんこんにちは、今日のフォーラムの司会をさせていただきます企画調整課の古谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日のフォーラム開催にあたりましては、皆様お忙しい中を参加いただきましてありがとうございます。

本日のフォーラムの進め方につきましては、昨年の10月から11月に5回、今年の6月から7月に4回 合わせまして9回開催いたしました。今回はその中から6つの分野に分かれまして話し合いをお願いしたいと思っております。

前回は、皆様から御意見、御提言をいただいておりますが、今回は市の中でどのような取組みがされているのか、そのような部分で市のほうでのPTのメンバーから報告をさせていただきます。

それでは、「いっしょに話そう、まちづくりフォーラム」バリアフリー分科会を始めさせていただきます。本日のコーディネーターであります乙津様を御紹介いたします。

《乙津》

どうも皆さんこんにちは。御紹介いただいた乙津でございます。

只今、司会の方からあったとおり前回フォーラムが行われたわけですが、その時に私は「情報化に親しむ」というテーマのコーディネーターを務めさせていただきましたわけでございます。今回、バリアフリーというテーマをコーディネートするというお話を頂戴しました。市長にお会いいたしまして、何でわたしがバリアフリーのコーディネーターをやるんだと、お聞きしましたら、たまたま最後に私が余

ったからと、ご冗談をおっしゃられましたけれど、たまたま内の女房がボランティアをやっていることもございまして、そんなことでフォーラムのコーディネーターをやれということでございます。

一応、自己紹介をさせていただきますけれど、私は福生生まれの福生育ちでございます。

現在は、四谷の方でソフトウェアの会社をやっておりますが、ちょうど情報処理が始まったころに学生だった訳です。言ってみれば大学でも情報処理コンピューターが始まったばかりの時期でございます。そう言う意味ではコンピューターの黎明期から実用期にわたって生きてきたわけでございます。

それでもバリアフリーというテーマに関してはまったくの素人でございますので、一市民として参加させていただきたいと思っております。それでコーディネーターを務めさせていただくため本を二冊ほど読ませていただいたり、インターネットをいろいろ見まして、にわか評論家って言うのですかね、そのようなレベルまではいっていませんけれど、まあ若干勉強させていただいたところでございます。とはいえ、直接そういう仕事に関わっているわけではございませんので、皆様方どうか御協力をいただきましてこのフォーラムが成功しますようよろしくお願いいたしますと思っております。

今回のフォーラムの目的でございますが、先程司会者から申し上げましたように、昨年「みんなで話そうまちづくりフォーラム」がだいぶ開催されておりまして、市の広報とかインターネットでずいぶん流されているのですが、そのインパクトはだいぶ大きくなっているのではないかと感じる訳であります。

二度と言いますか、昨年今年の7月とフォーラムが行われているわけですが、その時に皆様から御意見、御提案等を頂戴したわけですが、市においてどのように今取り組んでいるのか。今後どういう形で進んでいくのか。市の御担当の方から御紹介いただきまして、さらにそれに対して皆様方からの御意見、御提案をいただきたいという目的のフォーラムでございます。

前回のフォーラムから3か月しかたっていないわけですが、当日、バリアフリーという名前ではありませんでしたけれどコーディネーターの長谷川先生のほうから、またやりましょうと、お声掛けがありまして、ちょうど市のほうでも来年度の予算を組む時期でもあります。本日、具体的な御提案がありましたら、それを早速予算のほうに組み入



れていただいて実施してもいいと、こう思っているところでございます。市長が常々おっしゃられているのですけれども、昨今の行政というのは押付型、今までは役所が考えたことを役所がやる、というスタンスだったのですけれども、住民主導型といえますか住民の意見希望そのようなものがより市政に反映されていく時代でございます。

つまり、私ども市民が暮らしやすいまちづくりを提言していく必要があると思っております。そのような観点でこのフォーラムにご発言をいただければ幸いではないかと思えます。

実は、この時間ご存知のように6つの会場で同時に分科会が開かれているわけでございます。お蔭様でこのフォーラムも大勢の方にお越しをいただきましてコーディネーターとしては一安心というところではございます。

それでは、これからフォーラムを始めさせていただきます。ということで司会者のほうにお願いしたいと思えます。

《司会》

どうもありがとうございました。

それでは、市のプロジェクトチームから社会福祉課の大越さんをお願いいたします。

《PT大越》

皆さんこんにちは。福生市役所の大越と申します。よろしく申し上げます。

市役所の中にバリアフリープロジェクトというものがありまして、私も関わり、事務局も兼務しております関係上、プロジェクトチームの代表というわけではないのですが、広報活動として、今日は出席させていただきました。

普段、私は福祉部の社会福祉課というところで、主に介護保険計画の策定に携わり、バリアフリーの関係で東京都の福祉のまちづくり条例に基づく届出事務を担当しております。

今日は、市民の方から見ますと市側の代表というように見えますが、我々プロジェクトチームは、自由に研究検討して市長に提案していくというグループですので、市民の方々の代弁者というわけではないんですが、どちらかといえば市民の方と同じような立場で市長あるいは各担当へいろいろお願い

をしていくというスタンスであります。

今日は皆さんの御意見等を吸収しまして、今後のチーム提案等の参考とさせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

《司会》

ありがとうございました。

これからは乙津様をお願いいたします。

《乙津》

それではバリアフリーにつきまして、皆様と一緒に考えていきたいと思えます。

前回、7月13日でございますが「自立し合える社会へ」というテーマで開催されたわけでございます。内容はバリアフリーの問題ですけれども、要するに障害をお持ちの方が自分で街へ出て生活するにはどうしたらいいのだろうか、というテーマで開催させていただきました。そこでは、4人の話題提供者から貴重なお話をお聞かせいただきました。山下さんからは、養護学校での生活、就職してからのお話、足が悪い人を目が悪くて眼鏡をかけている人と同じ感覚で受け止めて欲しいとのお話でございます。

それから、西村先生からは医者としてのお立場で地域医療の問題とか、アパートの高層階に住んでおられるご高齢者のことなどをお聞かせいただきました。それから、高崎さんと綾部さんからは、障害者をお持ちの親の立場として、主に教育問題につきまして御提言をいただきました。一般学級で勉強を受けさせたいという親の気持ちと、学校や市当局、教育委員会との間の葛藤の様子が伝わってきたところでございます。また、高崎さんからはお子さんが街に出て感じていることをお話いただきました。内容的にはどちらかというところ、ハードのバリアフリー施設の整備よりも、心のバリアフリーが主体ではなかったかなと思えます。また、心のバリアフリー、ハードのバリアフリーに関しましては後程お時間をいただきたいと思います。

さて、本日の目的でありますバリアフリーに対しまして、現在まで市の取組みとか今後の予定について、今、大越さんからご説明がありましたとおりプロジェクトチームというのを作って検討が続けられています。そのプロジェクトチームでどのような状況なのか等につきまして、大越さんの方からお話をいただきたいと思います。

本日、簡単なパンフレットを用意していただきました。今、コピーしてお手元にお配りしたわけでございますが、これに沿ってお話が進むのではないかと思います。そういうことで、まず、市の状況につきまして大越さんからお話いただきたいと思います。

《PT大越》

それでは、私の方からプロジェクトチームでどんなことをしているのかをお話したいと思います。本日の資料としまして、簡単にまとめを配布させていただいておりますので、これに沿ってお話をしたい

と思います。

まず、現在までの市の取組なのですが、市の事業につきましても、すべて市の総合計画に基づいて実施されています。

総合計画とはどんなものかと言いますと、市の基本構想がもとになりまして、その基本構想のまちづくりの基本的な方向を示したものとして基本計画がございまして、その下に実施計画がございまして、その下に実施計画がございまして、その下に実施計画がございまして、その下に実施計画がございまして「安全とやすらぎのあるまち」、それに基づきまして基本計画の中で福祉のまちづくりを推進しようとするものです。これに基づき実施計画にバリアフリーがございまして、たとえば今年14年度には福生第一中学校の側道に歩道がないのですが、そこに歩道を設置する。あるいは西友の裏側の通り、柳通りと言うのですが、その歩道整備が始まっておりまして、そのバリアフリー。それから公園便所の改良のバリアフリー。小中学校の体育館。これにつきましては、選挙ですとか、いろんな行事で市民の方が利用しやすくするように、また、直接バリアフリーの事業ではないのですが、現在福生駅東口に西友の建替えが14年度、15年度で国の都市再生交通拠点整備事業によりまして、ペDESTリアンデッキ、立川駅の北口ですとかの高架通路ですか、それをつける予定がございまして、エレベーターも駅のロータリー側、西友の駐車場側に設置される予定です。それからプロジェクトチームといいましても、一般企業のと若干違いまして、福生市のプロジェクトチームは自由に研究・検討して市長に対し提案をしていくというスタンスになっております。プロジェクトチームにつきましても、市長の思いだけでつくった訳ではありませんでして、基本計画の中にも組織内の横断的な応援体制、行革大綱の中でも庁内プロジェクトを活用して、いろんな場合の対応をしていくという計画になっています。それでプロジェクトチームの考えにつきましては、ほぼ100パーセント市長とまったく同じ考え方であればいいのかもしれませんが、ほかに足りないものがあれば市として補足し、あるいはまずいものがあれば市として修正したりして実際に計画が推進されていくということです。

それから、バリアフリープロジェクトチームはどんな事を行っているかということですが、メンバーは10名おりまして、課長1名、係長以下8名のメンバーと企画調整課の職員が1名おります。我々の役割としましては、庁内の推進体制も含めましたバリアフリー化の指針づくり、どうやって進めていくか、具体的にどんな事業を提案していくか、といった内容の計画書案をつくって市長に提出しようと考えています。それに基づきまして市として計画を作っていくわけですが、そんなに変わらないものにならないようにしていくつもりでございます。

それから、今まで10回会議を開催しているのですが、自分たちの意見を出し合ったり、チームの中の計画について話し合っています。チームで検討している間には予算関係事務がどんどん進んでいきますので、今年の予算編成で、去年のうちにバリア

フリー関連で担当から提案されている事業については是非とも採択し、予算を付けていただくよう要望してきました。それから、職員のメンバーだけではやはり分からない部分もございまして、バリアフリーについてのアンケート調査を実施しました。一般市民にもすればよかったのですが、実際に高齢者の方、障害をお持ちの方を対象にということで町会長さん、身体障害者福祉協会の役員の方、老人クラブの会長さんを対象にアンケートを実施させていただきました。内容については、そんなに難しいアンケートよりも、どんなことがバリアフリー関係でお困りなのか、あるいは、どんなふうにお考えになっているのか、というところが知りたかったものですから、身近な施設でどんなことに困っているのか、たとえば道路とか駅ですとかどこから手をつけていっていいのか、どういうお気持ちなのかということが知りたいということで調査をいたしました。

結果としては、意外と市の建物というのは生活の中で役所に行かなければあまり影響ないのかもしれないませんが、道路というのは生活に密着していますので道路を良くしてもらいたいという答が多かったです。

それから老人クラブの会長さんからは、駅の階段をエレベーターにしていきたいという御意見が多くありました。

それから、現在推進計画の作成中ですが、少し作業が遅れてしまっておりまして、今後12月ごろまでには市長に提出して年明けに市側として推進計画を作っていけたらと考えております。理想としましては月並みですけど道路や駅、市の建物などの施設、それから一般市民の利用される民間施設、これはコンビニ、スーパーとか医療施設とか、視覚障害聴覚障害のある方に対するの情報化とか芸術文化鑑賞対応などをやる方向で考えております。それから心のバリアフリーについてお話がありましたけれど、我々が考えている就学に関するバリアフリーにつきましても、普通学級で学習に支障がない児童生徒は普通学級で学んでいただけたようにしたいと考えております。この前、Dさんの方から地元の学校に通ったことがないとお話がありましたが、確かに昔のスタンスですと施設の未整備のせいもありますけれど、エレベーターさえあれば皆と一緒に勉強できたのに、車椅子が必要で常時付き添いが必要だったり、しかも階段の上り下りが大変ですので物理的な面からも難しかったのかもしれない。

最近の東京都教育委員会の方針もできるだけ普通学級でということなので、おそらく市の方でもそういう方針だと思われそうです。ただ方針がそうであっても、実際にバリアフリー整備が遅れていますとなかなか言っていることと、やっていることが違ってきてしまいます。結果的には養護学校に通うということになってしまうわけで、特に市の施設の中でも学校の施設についてのバリアフリーは早いうちに是非100%整備していければいいのですが、それから、施設の整備で先程言うのを忘れてしまいましたが、アンケート調査の結果でチームとして公共施

設のバリアフリー施設の状況調査を実施しております。去年12月に実施したのですが、駅と市の主要施設を結ぶ主要道路9路線の状況と市の建物、都市公園12か所について調査を実施しました。新しい所はバリアフリーが進んでいるのですが、従来の施設についてはなかなか進んでいない状況であります。それでまた元に戻りますが、就学に関するバリアフリーと、それから一番難しいことなのでしょうが、ハンディを持った人への思いやりを普通なこととすることが理想でありまして、バリアフリーに限らず、他人への思いやりとかやさしい心を持つことは大変むずかしいことだと思います。何をどうするかと言っても具体的にはなかなか出て来ませんが、困っている人に声をかけたり、手助けをしてあげるといったことが考えられます。それから、他人への思いやりを素直に感謝できる心を育むことも必要だと思います。なかなか簡単にはいかないと思いますが、そうした方向に進むのが理想だと思います。ですから我々としては、対市役所という点で、施設管理担当者にバリアフリーの意識をもってもらうことが必要ですし、設計業者や建築業者もそうした意識をもってもらう必要があると思っています。また、広い意味では、ハード部分の整備も心のバリアフリーが必要だと考えています。また、対民間事業者ですが、商工会や事業別組合等を通じて、バリアフリーの要請をしていきたいと考えています。

それからバリアフリーの啓発ですが、ポスターですとか広報で流したりするだけでは、そう簡単にはいかないと思います。ではどうするのと言われてもなかなか良い考えが無いのですが、順に施設を整備していった整備したエレベーターとかエスカレーターを見ていただいたり、段差を直したり、障害者用のスロープですとかそういうものを市が設置したり、民間事業者の方がそういったサイドで取り組んだものを市民の方に見ていただければ、バリアフリーの効果が進むのではないかと思います。

学校現場の取組では、低学年のうちからバリアフリーについて総合的な学習の時間ですとかで教えていただけたらなどの思いがあります。先程も言いましたが、小中学校へのエレベーターの設置は不可欠だと思います。いろいろうちの方では提案させていただきたいと思うのですが、課題もあります。拝島駅、牛浜駅のエレベーター設置に関しましては、市民の御要望もありまして、御存知かと思いますが、拝島駅につきましては昭島市との境目で、現在の自由通路は昭島市になっております。そんな関係で昭島市の財政事情から見ましても、また昭島市からみれば拝島駅は一番はずれにありまして、福生市だけでできるということではありません。実際に少しずつして福生方向に設置すれば福生で事業ができますが、それには莫大な事業費が見込まれまして、今後も協議が必要でなかなか事業が進まない状況となっております。それから牛浜駅のエレベーターの設置につきましては、JRが言うには階段の高さの関係で、優先順位が低いということだそうです。とは言っても牛浜駅は、市民会館、昔は高校野球での利用

もあったのですが、野球場や図書館など公の施設がたくさんありますし、JRの方に強く要望していく必要があると思います。それから熊川の駅につきましては、五日市線の複線化とか駅の移設の話もありますし、なかなか進まない状況となっております。道路につきましては総延長で120キロ以上ありまして、すみからすみまでというわけにはいかないのですが、市の主要施設と駅を結ぶ道路の整備、基地のあたりから青梅線、田園にかけて段差がありまして、その道路のバリアフリー化、市内を周回できるような道路網の整備が必要だと考えます。それから都道国道については、実際に市は手を出せないんですが、これも地元からの要望がたいへん多いので、東京都、国に対して今後継続的に要望していく必要があると思います。

それから建物なのですが、エレベーターは2階以上の施設については、建築基準法との関係もあり、耐震構造でないと設置は難しいのですが、何らかの対応が必要だと考えます。庁舎につきましては、建替え問題がありますがすぐにはできないと思いますので、2階以上の窓口につきましては受付の職員が担当へ連絡し、1階に来てもらうといった方法で対応していくようにしたいと考えています。

それから公営住宅の問題は東京都につきましてはバリアフリーを進めているようなのですが、住宅供給公社は優先順位がありまして、たとえば加美平住宅は40年代始めにできたものですが、公社としては20年代、30年代を今優先して、建替えをしているようでして、40年代のものにつきましては、まだ着手できないというようなことを聞いております。

それから財源問題ですが、これからは高齢社会のノーマライゼーションの立場に立てばバリアフリーに関しては重要課題であるということで、優先的な取組が必要だと思っています。ですから、「ハードからソフトへ」ということが言われていますが、これからは、「ソフトと共にハード」ということで進めていけたらと思っています。

私の方からは、以上です。どうぞよろしく願いたします。

【資料(パンフレット)は文末に掲載してあります。】

《乙津》

ありがとうございました。

お話を聞いても、今、ここをどうするということろまで行けない難しいテーマではないかと思えます。

今日は手話通訳の方が大勢見えております。お世話になります。

今日はお目の悪い方はいらっしやらないようですね。刷り物とか画像を用意してきてしまいました。

今日は役所や行政での検討状況とか課題についてご説明いただいたわけですが、何か皆様からご質問ご提言がございましたら頂戴したいと思います。

フォーラムについては、今まででもそうですが、記録を取らせていただきます。

市の考えていることについて、質問がありましたら後程お願いいたします。

今日は車椅子でいらした方はどなたも見えていないようですが、バリアフリーのハードの面では足とか手に障害をお持ちの方に対するバリアーを解く、という観点で捕らえる方が多いのですけど、実は、私も今はどこでも行けるのですが、年を取ると足が弱ってまいります。そういう意味では御高齢者のかたから見ましても、いろんな街のバリアーが見つかるわけですね。そういう観点で、あと何10年先になるかわかりませんが、自分もこのような形であてはめてみればいいのではないのでしょうか。

《Aさん》

駅の乗降客によってJRは考えるとのことだったようですが、何人ぐらいなのでしょう。

《PT大越》

現在、1日5千人と聞いております。

《Aさん》

東福生駅の階段が非常に滑り、よく転んでいる人を見かけるので、せめて滑らない方策はできないものか。上りが階段、下りが階段しかも狭い、急で条件が非常に悪い。現在は5千人いないと思いますが、複線化の計画が進められているようですが、将来は青梅線、五日市線を越えるような発展が望まれているようですが、その点からも5千人にかかわらず、市からもJRに安全への配慮に尽くしていただきたい。

《乙津》

ありがとうございます。

たしかにJRも今たいへんな状況でして、エレベーターつけるにしても、だいたい自分でやらないで地元で金出せと言うスタンスのようで、ご利用になられている駅が非常に気になられているようですが。私も拝島の駅でして、町会長のアンケートで拝島の駅はどうなっているのだ、ということを書いたのですが。行政に挟まれた駅でして。前の市長の時も福生市と昭島市と東京都も入って、どうにかしなくちゃと何度もやったらしいのですが、何もできないという状況でして。まあ、できるところからやっていくのがいいのではないかと私は思うのですが。皆さんお住まいの近くで何かお気づきの点がありましたら、何かいかがでしょうか。

《Bさん》

知的障害のある方の学校での受け入れ状況はどうなっているのでしょうか。（要旨）

《PT大越》

私は何年か前に教育委員会にいたのですが、現在の様子は分からないのですが。私自身の考え方からお話すれば、その子その子で状

態も違いましょうし、普通学級の子と一っしょの方が、条件を全然みないで、配慮なしで、ただいっしょに行った方がいいんだという考え方ではないと思います。先生も子どもによって印刷物とかを全部変えていくわけにもいかないでしょうし。やはりいっしょに学習していくという面では、ただいっしょにいた方がいいんだという考え方で同じ教室でお友達もできて、仲良くできて、楽しくできたとしても、勉強の方が先生の言っていることが全然わからなくて卒業するっていうのはおもしろくないと思います。やっぱりある程度分かって、我々にしても小学校で先生のいったことはあまり覚えていませんが、ただその時その時でテストなんかありますから、やはり吸収するものが無い形で卒業してしまうのは、かわいそうだと私は思います。教育委員会に就学相談がありますが、そこで児童のその時にあった道を指導してあげるのですが、普通学級にいるよりも例えば心障学級にいった方がその子にとっては、幸せな場合があると思います。

《乙津》

大越さんは、教育にいられたのは随分前なので。現在の方がきているわけではございませんので、調べられたらなんかの形で御報告したいと思います。

たしかに、前回のテーマでもございましたように、障害のあるお子様が普通学級で勉強できないかというテーマは、インターネットを探してもそこらじゅうで話題になっていまして、徐々にいろんな学校で触れられているようです。

今日、画像を置いてきてしまったのですが。何県かの小学校でバリアフリーの次のユニバーサルデザインという言葉がございますが。バリアフリーとなりますと障害のある方、高齢者の方のバリアーを取り除くというのが主体なのですが。ユニバーサルデザインになりますと、我々皆すべての人のために物をデザインすべきだという方向になります。

小学校、中学校ですか。今ありますね、総合的学習の時間の中で街中からバリアーを見つけ出して、それをどうしたらいいかを考えさせることもおこなっているようです。その時にですね、いきなり手や足の不自由な子が行った時にですね、その子と一緒に生活するにはどうしたらいいのか、という知恵がたぶん小学校時代の子ですと、なんともなしに身につけていくと思うのですね。そういう議論もなされているようでございます。

福生市の問題は、大越さんから説明がありましたが、身近な問題としては庁舎の問題。これは結論としては建替えなければいけないんじゃないか、ということで議会の方でも検討されております。具体的な案もできているようですが、それに対して市民の方からご意見を頂戴しているんですけど、私は決して行政の立場から言っているわけではないのですが、御意見の数が余りにも少ない。ですから、もっと皆さん役所を建てるにしても補助金はいただくのでしょが我々の税金を使うわけですよ。もっとこうしなければとか行政にいうべきだと思うのですね、この場では具体的なテーマにつ

いてはできないのですが、それなりにその案には、今まで考えられているバリアフリーに対応する設備が盛り込まれていると思いますけど。この場でも結構ですから新しい庁舎建設に関して、これに関してはどうなんだ、という質問をいただいております。

それから今進んでいるのは、大越さんがご説明になりましたけれど、福生駅東口の西友が新しくなるのですけど。そこにペディストリアンデッキができて、駅を降りると西友にも行けますし、柳通りに降りられ駐車場側にも行け、全部エレベーターが設置される、というような計画があります。それに関しては、我々も青写真ができた段階です、こうではないかという御意見をですね、まあ手元にはないので具体的にどうだとは言えないのですけれど。

《PT大越》

14年度、15年度で西友が建替えられる予定です。今はまだ取り壊しはしてないのですが、仮店舗が駅側にできています。取り壊されたあと、地上6階（地下1階）建てで延べ床面積30,428㎡、それから柳通りを挟んで駐車場があるのですが、そこにも地上6階の駐車棟ができて、1階は店舗なのですが、2階より上が駐車場で延べ床面積22,676㎡、さっきお話したように都市再生交通拠点整備事業として国と事業者、自治体が3分の1ずつお金を出して実施する事業です。もちろん建物は西友が建てますけど、共通しているペディストリアンデッキ、日本語なら高架通路とも言うのでしょうか、右側はパチンコ屋、正面がマクドナルド、左側のロータリーのバス停のそばにエレベーターが1基設置されます。それから西友の駐車場には公共駐輪場として2,000台収容のスペースが地下1階にでき、地下1階が自転車駐輪場になります。公共通路が西友の建物南側にできて、その通路は柳通りを越え駐車棟まで通じます。エレベーターは駅から出てロータリーの隣、西友の現在の建物の南側ロータリー側に1基、それからさらに駐車棟に2基、全部で4基できることとなります。事業費ですけど私の知っている限りでは、約6億で負担割合は3分の1ずつになります。

平成15年3月現在の事業費は、平成14年度が4億8,300万円、平成15年度が9億6,300万円、合計の総事業費は14億4,600万円となっています。約6億については、訂正させていただきます。（大越）

《乙津》

1から設計して、そこにエレベーターをつけますと、そこそこ使いやすいと思うのですが。たとえば、今ある所にエレベーターを付けようとするんですけど、場所の関係もあると思うのですが、往々にして、とんでない所にエレベーターをつけざるを得ない状況にあるのですね。そうしますと車椅子をご利用の方は、そこまで行って乗れば今まで階段を上らなかったものが、自分の力で上に行けるわけです

から、プラスになると思うのですが。杖をついて歩いておられる方とかですね、ご高齢者でやっと歩いている方は、とんでない所まで行ってエレベーターに乗って、また、とんでない所に戻ってこなければいけないと、逆にバリアーになっている事実もあるようです。ですから、もう今とんとん街が新しくなっている時ですから、行政の方でもそういう方向にいくと思うのですが、今ある施設にエレベーターをつけるとなると、逆にバリアーになる可能性もあるというお話もあります。

市役所にエレベーターをつけるには、耐震工事をしなければいけないので20億かかるようです。

《Aさん》

今の都市再生予算のことなのですが、市の持ち出しが2億で、全部で6億なのですか。

《PT大越》

市の持ち出しが2億です。2年間の合計では、市の負担が4億8,200万円となります。（大越）

《Aさん》

もう一つ駐輪場なのですが、現在屋外にあります。あれで何台ぐらいなのですか。随分多いですが、私なんか普段契約していないと使えないのですよ。

《PT大越》

西友の駐輪場は、2,200台を予定しています。自転車2,200台、ミニバイク148台です。<現在の収容台数>東口第1駐車場の定期利用：自転車993台、一時利用：自転車112台、東口第2駐車場の定期利用：自転車840台、バイク166台、一時利用：自転車184台、バイク20台 合計：自転車2,129台、バイク186台

《乙津》

他に何か市の計画に対して、御意見はございますでしょうか。

外国ではどうなのかとか、皆さんに少しバリアフリーの知識を持っていただくという考えがございまして、インターネットから拾ってまいりましたので、若干御説明をさせていただいて、それをもとにじゃあ福生市ではどうしたらいいのだろう、という方向に向かっていこうと思います。

三重県が用意しているホームページで、非常にイラストでおもしろいを持ってきたのですが、お子さんにも分かりやすくできています。たとえば駅、分かりきっている事なのですが、階段そのままですと駅員さんが車椅子を運ぶことになるのですね。ホームと電車との間に隙間があると、これまた人の助けを得なければ電車に乗れない。私が何で電車で段差ができるのだと質問したのですけれど、電車はバネで満員になると下がるのですね。普通の時に平らにすると、今度は下に段差ができるのでして。でも今はエアークッションで平らにできるそうで

して、じゃあどうすれば言いのという、ホームにエレベーターをつけなさい、これが今は進んでいるようでして。

たとえばエレベーターはどうかといいますと。マンションにあるような小さいエレベーターですと、入口が狭いと入れないとか、ボタンが高いと届かないとか。これは、ほとんど解決されていると思うのですが、中に入った時に目の不自由な方がどのボタンを押していいかわからない。これもほとんど新しいエレベーターには点字がついていたりしていると思うのですが、これにはないのですが、エレベーターに鏡がついている理由が最初わからなかったのですが、車椅子の方が後ろの方を見るために有るのですね。あまり高いところに付いていると、車椅子の方が見えないということもあります。これも建築家の知識がないために生まれたものではないかと思えますね。まあ、今のエレベーターはこの形になっていると思います。それからエレベーターがしゃべりますね。ですからそういう意味では、目の不自由な方にも操作上からはバリアーはだいぶ離れていくと思います。

前回のフォーラム「情報化に親しむ」でも紹介したのですが、実は目の不自由な方が、パソコンを自由に使われる世の中になってございます。このパソコンは福祉協議会からお借りしたのですが、目の不自由な方のパソコン教室を開いているのですが、その時に使っているパソコンでございまして、画面を全部読んでくれるのですね。ですから画面が全然見えない方でも内容を知ることができるというものです。

それから、これは県のレベルのお話でして、市でここまでやるか、というとなかなか難しいところも有るのでしょうか。ともかくバリアフリーのまちづくりに関して、こういう方向で進みなさい、ということで、場合によっては条例がずいぶん出来ているのですね。たまたま派手だったので三重県のお持ちしました。まあ、市の方でこのレベルまで作るかどうかわかりませんが。

ちょっと字が小さくて恐縮なのですが、これはたまたまインターネットにのっていたので実物とはっていないのですが、三重県が出しているパンフレット、冊子だと思のですが、これは要求すれば手に入るものなんでしょうか。これは要するに心のバリアフリーの面で車椅子に乗った方が近くにいた。我々はどうすべきか。目の悪い方が一人で困っていた。我々はどうしてあげればいいのか。というためのことも全部取り上げてあります。

バリアフリーに対して、ほとんどの内容がこれに盛り込まれているように思います。耳の不自由な方にどう接したらいいのか、とかのマニュアルが入って。これをどう使っているのか、三重県に聞いていないのですけど。これは、本来学校で教えることなのかかわかりませんが、たぶん外国であれば、教会とか地域の集いの時にそういう人が教えるのだと思うのですが。日本では、そういう場所がありませんのでこういう知識を得られないのが現状ですね。事細かに、これがはたして車椅子をご

利用になっている方にとってありがたいことなのか分からないのですが、このようなパンフレットが使われているようです。

しからは身近な東京都はどうだということで、東京都のほうもバリアフリーに対しては相当やっておられまして、バリアフリーマップ東京というのを作っております。

たとえば新宿駅に障害者用の施設がどこにあるのか、全部埋めてあるマップでして、車椅子で使えるトイレがどこにあるのか。何々がどこにあるとか。時間があつたら後でお見せしますが、そういうマップができています。ただ我々は物を見ていないので、インターネットから持ってくれば実際に本になるのですけれども、目の不自由な方用にも、たぶんそのような資料を東京都ですから出していると思うのですね。

これは、先程の三重県の東京版になろうかと思うのですが、車椅子の介助方法ですね。ちょっと時間がなくて、一応都の方でもこのような情報は流しているわけで、もったいないのですよ。これだけの物を作って用意しているということは、個人的にはそう思うのですが。

それから、静岡県、先程ちょっと出しましたが、バリアフリーという言葉は既に消えていまして、ユニバーサルデザインの検討にしています。静岡県がバリアフリーの街なのか、それはちょっとわかりませんが、県としてはバリアフリーという言葉は消えてしまっていて、UDということで検討が進んでいます。

ひとつの例なのですが、ユニバーサルデザインって具体的にどうなんだといいますと。ひとつはテレホンカード、まあ携帯が進んでいますからあまり使う機会はないのですが。よく見ますと必ず切込みが入ってしまっていて、バスのカードもそうなのですが、なんでこれが付いていますかという、特に目の不自由な方が、方向がわからないのですねカードの。ですからこれが入っているのが後ろだよ、ということでNTTが考えたユニバーサルデザインだそうですね。これは、考え方が本来おかしいのではないかと、言われています。方向が決まっているから、そんなデザインをして威張ってなきやいけない。今、JRのきっぷを考えて見ますと、どこから入れても通るのですよ。横からでも裏でも通るのですよ。じゃあこのカードだって、どこから入れても動くようにすればいいだけなのですね、と思います。あとは、シャンプーとリンスを分けるために、どちらかに必ずギザギザが付いているそうですね。それから確かにこのごろの歯磨きはみんなこんな形をしているのですね。これは要するに片手で取れたり、蓋がどこかにいっちゃったということがないように。こういうのを考えたそうです。それから、この頃売れている活字の大きい辞書、これも年取るとやっぱり小さい字が見えにくくなるので、元から大きな字にしちゃえと。次は電卓などの真中のボタンにポッチが出ているのですね。要するに目の不自由な方にも場所がわかるということで。だいたい5の数字に、パソコンのキーですと、ど真ん中のLの所に

ポッチがあります。このような形で世の中では考えられています。

しからば、福生市はどうしているか、これは福生市のホームページです。

内容を見ていただくと、バリアフリーのバの字も無い、別に不満で言っているわけではないのでして、これからだということ私がいいたいのでして福生市においては、やはり都府県のレベルですと、そこまで進んで条例化まで進んで、それやれという段階にいらいます。ところが市のほうは今、少なくともホームページで出しているところではバリアフリーの検討チームの話も出ていません。たまたま今日のまちづくりフォーラムについては、ホームページには報告はしてございます。ただ、アクションは早くなったのですけれど、バリアフリーをどう考えようという具体的なページはまだございません。

それから、ディズニールランドへいらしたかたは、大勢いらっしゃると思うのですが、やはり向こうの施設・設備は、バリアフリーに関して非常に細かく考えられていますね。これはディズニールランドが作ったホームページなので、現地情報です。私も全然知らなかったのですけれど、とにかくハンディキャップをお持ちの方に、ディズニールランドはこういうことをしていますと、事細かに応えています。ともかく、障害をお持ちの方にこういうことを準備してあります、ということが全部、いろんな障害の方にこういう対応をしています、ということがこれを見ても分かります。たぶん行っても向こうは教育が進んでいますので困ることがないのじゃないかと、かってに想像しています。たとえば車椅子をご利用の方が利用できる施設というか、このジェットコースター乗れますとか、御身足が悪くて松葉杖を利用される方は、この施設とか全部一覧が出ております。前はハンディキャップをお持ちの方に、優先的に乗せるようなものがあつたらしいのですが、そこは消えたらしいのですが、ここまでディズニールランドでは考えているようです。今回のとはあまり関係はないのですが、ADHG という言葉も良く出てくるのですね、結構進んでいるなと思いました。

ちなみにバリアフリータウンのことでは、これは、あるNPOがこの街にバリアフリー施設を持っている施設がどのくらいあるか調べたのですね。それで人口一人当たりそういう施設がいくつあるかを割った数なのですが、なんと東京都では奥多摩町がトップなのですね。これは多分に人口が少ないからではないかと思うのですが、残念ながらわが町は入らなかったのですが、23区の方が進んでいるかなとそうではなくて、例えば、八王子市なんかは相当進んでいるはずなのですが、人口が多いせいでしょうか下がっちゃっていますね。そして、これを全国規模で集計した結果では上九一色村がトップだという。これも人口の問題ではないかと、やはり人口が少ないところが上位になっているようですね。東京のように人口が多いと追いつけない、ということになるのでしょうか。やっとなんと奥多摩町が54位に入り全国ではこんな順位になってくるようです。これはたしか2年くらい前の統計ですね。

デンマークのほうで、バリアフリーのマニュアルというのを見つけまして、これは素人が見てもなるほどな、というデータが結構揃っています。たとえば、住宅づくりでは障害者が使うとすると、こういう寸法にしないといけないマニュアルで細かく決まっています、設計者は知識として入れておかなければいけないと思うというデータです。

たまたま見つけたのですが、障害をお持ちの方、障害をお持ちのお子さんの親御さん、やはり孤軍奮闘といえますか、どこへ持っていったらいいか分からないことが現実には起こると思うのですが、ご存知の方がいらっしゃると思うのですが、ヤフーと言って今インターネットでは有名なサイトなのですが、そこで掲示板というのを作ってまして、勝手に投稿するのですね。それに対して私はこう思う、私はこう思うと書きこまれるのですね。要するに悩まないで、子育てでお子さんを絞めちゃったなんて、不幸なことがございますけれど、非常にこういうところで、相談する相手は全国からですと、ものすごい数になりますね。それに関しての相談ごとで、二千八百回も投稿が有るような、だんだん数が増えているのですね。まあ、普通学級へ障害をお持ちのお子さんを通わせた経験がどうか。うちの街ではどうか、相当細かく議論がされております。ですから、これがここでお互い検討が進んで表へ出ていけばいいことではないのでしょうか。

あと、これもひとつのテーマなのではないでしょうか。今、歩道橋というのは非常にこういう世界では話題になっていますが、日本という国は非常にせっかちと申しますか、便利さを追求してどっちかという、車社会にどんどん向かってきた。そうすると道路を車が走るの、そこを横断するのが危ないから、横断歩道を撤去して歩道橋をどんどん架けていった。その挙げ句どうなったかというと、足の不自由な方や高齢者の方が、そこを上れないということが起きてきたわけですね。健脚の方にとっても真直ぐ行けば一番いいのですね。わざわざ上に登って向こう側行って、馬鹿じゃないかという社会現象になってきた。その挙げ句登るのがたいへんだ、車椅子ではたいへんだ、と歩道橋にエレベーターを付け始めたのですよ。タイトルは違うのですが、ともかくエレベーターのない駅は法律違反だと、この先生はおっしゃるのです。ですから歩道橋にエレベーターを付ける、そのためにどんどん金出せという御意見なのです。だけどエレベーターを付ければこれが本当にいい解決法なのか、という考え方が出てきてまして、もともと歩道橋なんて無いほうが当たり前ではないのか。阪神大震災の時も、歩道橋が倒れて救急車も通れないような現実がでていたことを見ますと、本当に人間性をこれから表に出すためには、事故の確率が本当に出るかわかりませんが、お互いマナーを守るような社会になれば、横断歩道が一番いいのかも知れない。もっと突き詰めた言い方をすると、これは私のまったくいいかげんな話ですが、道路を掘ればいいんじゃないか。要するに、そこに橋を架ければ人間は普通に通れますよね。ただ、どちらかという、車はともかく横断歩道なんかある

と信号をつけないければ渋滞が始まっちゃうよ、というのが事実かもしれないですけど、そのために人間が渡るのにそんなに苦労して、お金をかけてエレベーターをつけることが、本当の解決法なのかなど、個人的にもそんな感じがしているところです。

お話をいただいてから余り時間がないので、取りとめないご紹介になりましたけれど、このあと3時から合同の会がございますけど、今日は私がしゃべる会ではございませんので、是非とも皆さんの方から私はこう思う、という御意見を頂戴したいのですが。Cさん、前回お聞かせ頂いたのですが、こないだ公民館ふっさの記事を見ましたらバリアフリー2001というのがあったと思うのですが、よろしかったらいきさつと言いますか、内容をご紹介いただけますでしょうか。

《Cさん》

Cと申します。私の息子はハンディキャップを持ちまして、今現在23歳、仕事を持ちまして福生の駅から拝島の駅と電車と通っています。福生駅に今1基エレベーターがついておりますけれど、西口から乗りまして拝島の駅で降りて、あと階段の所にエスカレーターが動いているのです、降りるのも西武線側に降りていまして、西武線側はホームから直接外に出るという形で、バリアフリーをやっている関係で、あそこは非常に危ないと。西武線側から出るとすぐ道路があって、あそこの交通量が多くて、特に朝なんか渋滞してまして、歩道があっても非常に狭い状態で、電柱があり柱があってもその中通れない。車道に出なければ行けないという問題がありまして。その関係も含めてバリアですね、危険ですね。福生の中でどこに危険なところがあるかを調べ分科会で発表しています。



また、心のバリアーについて小学校に入る時からわかっていますが、中学校でも問題があって、結果的には養護学校に入りますが、普通の学校の中にいることによって、健常者の子供の気持ちがすごく変わるのではないかと。特殊学級があるところと、ないところとの格差があると思うのですね。いっしょにいることにより、自分達と違うものを感じる事が大事ではないかと思えます。

あと、同じ人達でクラス30人がいる中で落ちこぼれが出てきても、学校教育の中でも勉強ができないから簡単に落ち零れとしているのですね。これもバリアーになっているのではないかと。いろんな人達がいるということで全体が見られ、心のバリアーがなくなるのではないかと。養護学校、知的障害、目の見えない方全体がいっしょに暮らせる社会を目指さなくてはならないと思います。

JR 新宿駅では西口にエレベーターが無くて、地下2階から小田急ホームに行ってから1階に出るようなへんな作り方をしているのです。逆に言うと、福生駅は1つしかないけどエレベーターで上がれば地上に出られるので、意外と不便さがあるにしても簡単に地上に出られるのですね。

東京駅では1日の車椅子利用が200から300人ぐらいあるようで、移動が地下におりればエレベーターが狭い、次元から言ったらもっと心のバリアーについて、小さい時から育て上げられていけば、車椅子をどういふふうにすればいいか、簡単に解決できるのではないかと思います。

《乙津》

私も四谷駅を利用していたのですが、駅からの点字ブロックが途中でなくなっていたり、インターロッキングと同じ色をしているのですが、弱視の方はあの色をたよりに歩いているのですね。なんか、洒落た所ほど黄色を嫌うのだそうです。そして、ポチポチを大きくすると、今度は車椅子や足が悪くてやっと歩いている方が、つまずいたり色々と問題があるのだそうです。これだけ全国規模に広まっている割には、つくる段階でこれだけ形が変わっていいのだろうかと思うのです。八王子盲学校の斉藤先生がおっしゃるには、それでもないよりあった方がいいと、視覚障害者から見ればそういう考えにならざるを得ないようなのです。本来であれば、もっときちんと全部が整備されれば非常にいいのではないのでしょうか。市のさっきのペディストリアンデッキに点字ブロックが埋まると思うのですが、先生に助言をいただければと思うのですが。

《Dさん》

これからの街っていうか、私は車の免許を持っていますが、家族の用事があってもこの街を走る巡回バスがない。本当はそういうのがあれば一番良いのですが。たとえば、玄関から走るようなマイクロバスがあれば子供も大人も障害者もみんなが乗れて、今問題になっているストーカーなどの危険も守れるのじゃないかと、自分が行きたい時間に。市役所からは「Dさん来て下さい」、私は来られるけど他の者はどうなのだ。皆さん、こう考えてください。3ヶ月間飲まず食わず、ガリガリの状態だった。それで電話したら、取りに來いや、それと同じですよ。たとえば、アフガニスタンの戦場での補給部隊としましょう。本部からこちらに來いと。ところがケガ人がいる重病者もいる栄養失調もいる。ヘリコプターもない。おまえら來い。まあ、戦争だからしょうがないと思いますけど。やはり、来て下さいではな

くって、あのバスで何時何分に行きます。あるいは FAX でも良いのではないのでしょうか。

この街はお年寄りが多い。23区や広島などは戦争により、お年寄りが少ない。地方に行けば行くほど多いというのは、そういう歴史があるから。戦争中、23区は爆撃されたから障害者の方に目を向ける。地方に行けば行くほど若者がいない年寄りが多い。戦時中、明治から昭和にかけて行けなかった人達が多い。そういった経過があってお年寄りが多いだろうな。だから、その町々によって状況が違ってくるのではないのか。そこにあったまちづくりができれば、皆さんがこの街に住んで良かったな、他の街の手本になれるようにするにはどうしたら良いかなと思います。

アメリカの国に行ってお年寄り観光してはいますが、福祉施設がどういった形で社会福祉法人で作られるか。アメリカは、実に合理的で徹底的に研究しますが、肌の色で態度が違います。それは明らかです。ただ、アメリカに行くには、こちらがこころを開けば向こうも開いてくれますから何でも質問に答えてくれます。向こうの国を見てどういった建物があるのか、使っているのか、横断歩道はどうなっているのか。こういう教育はどうなのか。皆さんアメリカに行って吸収した方が良いでしょう。外人さんなら横田基地にいますから、アメリカ合衆国の一員に間違いありませんから、たぶん障害者は好き嫌いがあるとないです。向こうの人は学校でボランティア精神をやっていますから、しゃべれる人は学んだ方が良いでしょう。基地があるからやだ、でも、今は平時だからこれを利用しないくちやいけないのです。アメリカ人は爆弾を落として帰っていったのではなくて、アメリカでやる教育を落として行ったのだと、そういうふうになれたらいいのではないかなと思います。

メキシコの方に行ってきましたが、メキシコ国境の町で感じたことは25歳の時ですが中国もそうだが貧乏なのです。正直言って、小さい子どもたちが一生懸命仕事をしている姿を見て、馬鹿だな、若者はのんびり観光なんかしている場合じゃねえよ。この子ども達にいつかは仕返しを食うぞ。もしかしたら、この子どもたちが立派な社会人、社長になって立派な街を作って、そのうち、お前達豊かな国に「俺達ガキの頃、俺達汚いと思ってた。見る、大人になったらこんな良い街作ったぞ。」と仕返しをされるのではないかと、僕もがんばらなくちゃいけない。こんな思っています。

《乙津》

ありがとうございます。もっと続けたいのですが、隣で片付けが始まったようなので、まあ半分勉強会になってしまった気がするのですが、そろそろお時間でございますので。この後も全体会議がございますので、ぜひご参加いただきたいと思います。

今日のフォーラムを通じて事前の勉強をしてみまして、我々もっと勉強しなければいけないのではないかと。今、Dさんがおっしゃったように、外国に行ってショックがあるそうでして。そういう目で見

ますと、巡回バスのお話をされましたけれど。バス一つをとってもノンステップバスを導入ですが、外国の目で見ますとノンステップバスでなくワンステップバスであるようですね。

たとえばヨーロッパのノンステップバスは、地上高18センチで床がまっ平らで、リフトも出てこなければ板がちょこっと出てくると車椅子がそのまま乗れるようなバスが相当運行しているらしいですね。

熊本の方でやはりそういうグループが、どうしても走らせたいと、その車を地元を持ってきて乗せたいらしいですよ。お上の方は底をやるからだめだ、と言ったのですが走らせて見るのが一番早い。何とも無しに運行できた。

熊本で電車が走り始めた、それもまさにノンステップの電車を入れたいらしいですからそれは何がやったか。まさに住民パワーでそれだけのパワーを盛り上げたからこそ実現できたのではないのでしょうか。

ですから今、Dさんがおっしゃったように、福生市が東京一になってもいいのではないかと、ほんとうは「一番人にやさしい街」を作ったらいかがかな。じゃあお前やれと言われてもそれはできないのですけど。もう少ししたらお手伝いはしたいと思うのですが。そんな観点で、今後検討をしていただいたら市民としていかがかなと思っています。

物の本でフランス人でしょうか。家の外へ出て動くのは、人間の権利だと言うのですね。彼らは、権利を主張するのだから行政もそれだけ金を使って設備を作れ、と主張できるのだそうですよ。日本人もフランス人も人には変わりはないのだから、その辺は、どんどん我々が主張していかないといけないのではないかな、と個人的には思っているところです。

先程の就学の問題に関しましても、我々が動かなければきっと行政は動けません。ですから、こういう機会をどんどん増やしていただいて、どんどん行政に意見を出すということが市民の役目ではないか。これからは、絶対そういうふうになりますので、今日お越しの方は興味を持って出ておられると思うので、また、こういう機会がございましたらどんどん、黙っていないで発言していただきたいと思うところです。

ちょうど時間がきてしまいました。みんなで話そうというフォーラムですので双方向でご発言をいただきましたが、ちょっとコーディネーターがしゃべり過ぎたかもしれませんがお許しをいただきたいと思います。

今日、手話通訳をしていただいた皆さん、ほんとうにありがとうございました。（拍手）では、これで今日のバリアフリー分科会を終了させていただきます。

本当にありがとうございました。（拍手）

- 終了 -

配布資料

「現在の市の取組はどうなっているか」

- 1 バリアフリーについての現在の取組（総合計画に基づく取組）
 - ・ 第3期基本構想（平成12年～22年）
まちづくりの目標の5つのうちのひとつ - 「安全とやすらぎのあるまち」
 - ・ 第3期基本計画（前期：平成12年～16年）
福祉のまちづくりの推進 - 普及、啓発、施設の整備（ハード）
 - ・ 実施計画（3年計画、毎年度見直し）に基づき、事業を実施
（例）14年度：歩道の整備（一中側道、柳通り）、公園便所の改良（柳山公園・長沢公園）、
小中学校体育館のスロープ設置ほか。
福生駅東口整備（都市再生交通拠点整備事業）：高架通路（ベディストリアンデッキ）、エレベーター
の設置（直接のバリアフリー事業ではないが。）

「プロジェクトチーム」ってなに。

- 2 プロジェクトチームとは。（位置付け）
 - ・ 第3期基本計画
行政運営の充実 - 部課間の積極的な応援態勢の強化、庁内プロジェクトチームの活用。
 - ・ 福生市行政改革大綱、推進計画（第3次）（平成13年） - 庁内プロジェクトチーム、連絡会の設置、活用
 - ・ 性格 - 市長への提言、提案するグループ（発想自由）
 - ・ 事業の実施（ハード、ソフト）は各担当課

バリアフリープロジェクトチームは、どんなことをしているのか。

- 3 バリアフリープロジェクトチームについて
 - ・ メンバー10名（事務局 - 社会福祉課）13年7月立上げ
リーダー：社会福祉課長、その他市役所内部の係長及び係員8名 + 企画調整課職員1名
 - ・ 役割 - 庁内の推進体制も含めたバリアフリー化の指針づくり（案）、具体的な推進事業内容等の提案（推進計画の作成） バリアフリーを推進するための単独計画
 - ・ これまでの活動 - 会議の開催 10回（平成13年7月17日～8月21日）
 - ・ 具体的な活動
平成14年度予算編成に向けた中間報告（提案）（13.11.30）
施設のバリアフリー化状況調査の実施（13.12.14）
バリアフリー化アンケート調査の実施（町会長14.2.14 身体障害者福祉協会役員
14.2.27、老人クラブ会長14.3.1）
（仮称）福生市バリアフリー化推進計画の作成（作業中）
 - ・ 今後の予定 - 12月報告書提出、（仮称）福生市バリアフリー化推進計画案の提示

（1）チームの理想、目標

- ・ 道路や駅、市の建物、多くの人々が利用する民間施設のバリアフリー化
- ・ 視覚、聴覚障害者に対する情報化、芸術、文化鑑賞のバリアフリー
<心のバリアフリー>
- ・ 就学に関するバリアフリー
普通学級での学習に支障がない児童生徒は、普通学級で学べるようにする。
- ・ ハンデをもった人への思いやりを普通なことにする。
- ・ 他人への思いやりを素直に感謝できる心を育むこと。
広い意味で言えば、ハード整備も心のバリアフリーが必要。

(2) 手段(バリアフリーを効果的に進めるために)

- ・ 対市役所内部組織の意識改革
バリアフリー化に対する職員意識の温度差解消、施設管理担当者、設計業者、工事請負者の指導、啓発担当課のバリアフリーに関する実施計画案の提出、予算要求、市としての事業採択、予算配当、事業実施の円滑化
- ・ 対市民、民間事業者(商工会、商店街組合、各事業別組合等)への協力要請、啓発
特にスーパー、レストラン、コンビニ等200㎡以上の不特定多数が利用する店舗など東京都まちづくり条例により、届出の対象となっている施設
- ・ どうすれば、バリアフリー化が進むか。
「具体的にこう進めていけば、市のバリアフリー化は進みますよ」という内容の報告
- ・ 市民の意見
モニター的な随時の意見募集、アンケートの実施、市民会議の設置 推進計画の中に「市民参画」を盛り込み、事業を推進。
- ・ 思いやりの心
施設整備を通じての市民への浸透
学校教育での取組み 低学年のうちに「バリアフリー」を学び、バリアフリーを通じて「やさしさ」の大切さを学んでもらう。
- ・ 障害者の普通学級への就学促進 エレベーターの設置、段差の解消

(3) 課題 技術的・財政的なこと

< 駅のバリアフリー >

- ・ 拝島駅の自由通路、駅の建て替え
- ・ 牛浜駅のエレベーター設置(高さの関係でJRの優先順位が低い)
- ・ 熊川駅は五日市線の複線化、駅の移設問題
- ・ 東福生駅は乗降客数が少ない関係でJRの優先順位が低い

< 道路 > - 総延長128キロ

- ・ どこから手をつけるか。市の施設周辺の主要道路、基地～青梅線～田園を結ぶ坂のある道、市内を巡回できる道路網
- ・ 都道、国道についての地道な要望

< 建物 >

- ・ 建築基準法、耐震構造
- ・ 現庁舎での対応 2階以上の窓口における対応

< 公営住宅 >

- ・ 都営住宅については、都がバリアフリーを進めている。
- ・ 住宅供給公社 昭和20年・30年代の建て替え優先、40年代の建物は優先順位が低い。

< 財源問題 >

- ・ 優先順位 高齢者社会、ノーマライゼーション社会における重要課題。
- ・ 重点施策としての取組み 「ソフト」と共に「ハード」を。